

特集：キャリア支援

就職活動を終了した修士2年生から生物学類生へのメッセージ

苅田 将宏（生命環境科学研究科、植物系統分類学研究室、理化学機器業界、営業）

①就職活動を終えての感想

就職活動は、当初想像していたよりも楽しい活動であったというのが率直な感想です。もちろん、立て続けに志望度の高い企業の面接に落ちた時などは、落ち込みました。ただ、就職活動を通じて出会った人とのつながりがあったからこそ、現在このように感じられているのだと思います。また、これまでの自身の歩んできた人生を、これ程まで真剣に振り返ったことはない、強く感じました。就職活動は、大変なイベントではありますが、自身の描く将来像に近づくための活動でもあるため、今後、就職活動をするにあたり、是非楽しみながら取り組んでほしいと思います。

②就職活動前に普段から心がけておくべき準備

（就職活動を終えて活動前にやっておけば良かったと思うこと/いつの時期に何をすれば良かったと思うか？）

就職活動で最も心掛けておくべきことは、『自分の将来像』を明確にもつことだと感じました。自分が将来何をしたいのかを自分の言葉で語れる人が、きっと面接の場でも、自分らしさを発揮でき、より魅力的に映るのだと思いました。また、本屋で売られているような就職活動（特に面接）のテクニック本は、ほとんど読みませんでした。なぜなら、企業・面接官が求めている人は、マニュアル通りに話せる人ではなく、“らしさ”をもった人だと思ったからです。また、ESに記入するために、改めて何か資格を取るための勉強をするよりも、学生時代にサークル、趣味、ボランティア、アルバイトなど、何かに打ち込んだ姿が一番のアピールポイントになると思います。

私は、夏過ぎからぼんやりと就職活動について考え、12月頃からしっかりとスタートしていました。何事も早いに越したことはありませんが、12月頃からES対策を始め、1~2月頃から面接対策を始めれば、十分だと思います。

③生物学類の教育（遍く生物学教育）を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種。または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え。

特に受け入れられやすい業界・職種は、『人による』というのが本音です。生物学を専攻している・いた方の就職先は、食品業界や製薬業界、化粧品業界などが中心なのかなという印象をもっています。また、私のように理化学機器業界から内定をもらっているため、有名企業だけではなく、興味を抱いた業界について、深く知ることが大切だと思いました。

就職活動の目的は、自分が描く将来像を達成できるであろう企業から内定を得ることだと、私は考えています。そのため、自分の専攻と業界選びとを、あまり深く考える必要はないと思います。なぜ、その業界・職種に就きたいのかを自信をもって話せば、心配はいらないと思います。

④就職活動中にとった戦略について

（ES、筆記試験、面接。さらに、生物学類での教育がどのように生かされたかなどあれば可。）

就職活動では、計画的に対策を立てることが大切だと感じました。まず、ESと面接の対策としては、とにかく数をこなしていくことが大切だと思いました。そのため、12月~3月頃に、頻繁に友達とお互いのESを見せ合い、アドバイスをもらっていました。また、面接対策でも同様に、友達とお互いに模擬面接を何度か行ないました。これらは非常にためになりました。相手のESや面接を客観的に見ることで、自分に反映できる点が多かったからです。このような繰り返しによって、本番ではより質の高いESや面接につながると感じました。筆記試験対策としては、市販の本を1冊解けば十分だと思います。

⑤生物学類教育に望むこと

私は他大学の生物コース出身のため、生物学類の授業や実験に関しては、TAとして参加した経験しかありません。しかし、筑波大学で学生生活を過ごしていると、周辺にある研究機関や大学内でのイベントと関わりをもつ機会に、とても恵まれているという印象を受けました。そのため、普段からそのような場に積極的に参加し、多くの経験を試みることで、新たな興味が芽生えるかもしれないと思いました。私は、学内で行なわれているSCOUT（科学ボランティア）の活動に何度か参加し、日本科学未来館（お台場）で活動紹介をしたことがあります。とても貴重な経験をすることができました。学類教育としては、学生に対して、このような情報を多く発信することで、より魅力的な学生生活に繋がられるのではないかと感じました。

⑥将来の抱負

私は、理化学機器業界の営業職として内定を頂きました。近い将来、海外のメーカーとも商談ができるような、グローバルなビジネスマンになりたいと思っています。これからは、社会人として、今まで以上に自身に責任をもって、充実した日々を過ごそうと思っています。

来年の春からは、新社会人として、謙虚にそして熱い思いをもって頑張っていきたいと思っています。

ありがとうございました。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received December 2, 2011.